

薫小だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」



郡山市立薫小学校 学 校 便 り No.13 令和5年 7月 4日

文責:校長 齋藤和彦

教育相談を..×2 の効果に 『その一言は,必ず子どものためにある』

ずんばった姿や笑顔が見えるような...どきどきしながら発表した声が聞こえるような...「先生はちゃんと見ていてくれた。がんばってよかった。」「2学期もがんばってみよう!」子どもから,こんな声が聞こえるような「通知票所見」を作成したいと思ってきました。

「あのとき先生にうんと褒められたんだ!」「みんなからすごいねって,拍手されたよ!」 持ち帰った夕食時の話題に,親に子どもが自慢できる通知票~このために「日々の授業」があります。(できた・努力した・学級の仲間から認められた・・を見取る評価伝達です)

ほんのわずかな一言(一文)が不思議に大きな力をもち,子どもに力を与え,保護者の信頼を得ることもある。もちろん,<u>『その一言は</u>必ず子どものためにある。』 そう思いたい。

本校の1学期通知票所見は,教育相談に替え担任からの伝達(相談)となります。 担任がお子さんの日々の授業や学校生活の中の懸命な努力や輝いた瞬間,その時々のよさを伝えるべく,右のような通知票所見(例)をできる限り,言葉で伝達します。教育相談の後に,ご家庭

で保護者からお子さんへ伝え る..その励まし (一言) が更 なる効果を発揮するのです。 『その一言は,必ず子どもの ためにあるのです。』



学校からのお知らせ(1学期末)

「絶対にできるようになる!」両手にマメができても練習し続けた逆上がりを6/21(木)とうとう成功させました。 あの時の友だちからの大きな拍手と歓声は、○君にとって大きな自信と励みになったことでしょう。褒められるごとにやる気を増し、「今日も宿題やってきました!」 漢字100点を目指す努力やできたところに赤ペン◎をもらって笑顔で授業を終える姿が多くなりました。

学校からのお知らせ(1学期末)

理解力に優れ、学習内容が確実に身についていることが、ほぼ満点のテスト結果に見て取れます。「僕の考えはみんなとちょっと違って...」と前置きして課題解決の方法や気付きを自分の言葉で丁寧に伝えることもよくできています。 転校してきて間もない中で戸惑うこともありましたが、仲間と大切に飼育し続けたカナブンを羽化させた〇君は、笑顔で学級の輪の真ん中にいました。

学校からのお知らせ(1学期末)

やる?どこまで?終わる?○君との合意確認のもとで学習を進めてきました。課題の板書をノートに書き終えて、得意気にパッと手を上げた時の笑顔。「おいらやってみる」「なんかすっきりする」「イラついたけど6秒がまんできた」等の日々の懸命な姿に応えられるよう今後も更に指導法を工夫します。席替え後に「○君の班の給食は笑いが止まりません」友達のうれしい悲鳴が拡散中です。

◎ 通知票~ほんのわずかな文字数(言葉数)ですが,担任は子どものがんばりの姿を伝える(表現)努力をしています。



◆◇ 校長室より ◇◆ げんき君の「ミルキー もてもて事件」

※ 道徳の時間に,次のようなお話をしました。(「正直」について考える道徳授業にて..)

げんき君は、いつもいつも、先生から注意をされる子でした。「また、げんき君でしょう!」って。 げんき君は、中学生になり、小学校から大好きだった陸上部に入りました。中学校でもたくさんの 陸上部の友だちと練習にはげみました。その日の陸上部練習が終わり、片付けをしているとき、部の女の子が、みんなにミルキー(あめ)を1個ずつ配りました。 友だちは、バックやポケットに入れて..。 げんき君は、「ありがとう」って、すぐに口の中にぱくっ!・・・ちょうど先生が来ました。口の中で何かコロコロしている、げんき君は、すぐに先生に見つかりました。「口を開けてみなさい」ミルキーが見つかりました。 先生は、「持ってきたのは、だれだ!」その場にいた女の子は下を向いて泣きそう。 友だちの部員は気まずい雰囲気だったそうです。 げんき君は迷わず、「ぼくです。」 先生から叱られて帰りました。 仲間の友だちは、「ごめんな。 げんきだけのせいになって。。」 女の子は泣きながら、「私がミルキー持ってきたのに。 ごめん。 先生に本当のこと言ってくる。」 げんき君は、「別に、いいよ。」「小学校のときだって、先生によく叱られてたから。 だいじょうぶ。」・・・この事件があってから、げんき君は、ちょっとの間でしたが、もてもて君になったのでした。

◆ げんき君は,先生に【うそ】をつきました。げんき君は【正直】に本当のことを言うべきだった?子ども達は,げんき君の【うそ】をたくさんたくさん考えてくれました。【正直】についても。~げんきからこの話をお風呂で聞いて,私はほめました。(お父さんだったら「ぼくです!」って言えたかな?と)